

# 森林官からのおたより

群馬森林管理署 渋川森林事務所

森林官 島田早苗

群馬県のほぼ真ん中にあたる渋川市に、私が勤務する森林事務所があります。

管轄区域は渋川市、前橋市、富士見村の広範囲にわたり、ここに3,632haの国有林が団地状に分散する形で存在しています。

北部の小野子、子持山系ではスギ・ヒノキの人工林が多く、木材生産が盛んに行われており、東部の赤城山系は、山頂周辺を中心に、特有の自然景観を利用したレクリエーションの場として利用されています。

特に、群馬県を代表する山である赤城山は、火山地形特有のゆるやかに裾野が広がった雄大な地形をしており、山頂部には大小のカルデラ湖があります。

春先から初夏にかけては様々なツツジが咲き乱れ、息をのむような美しさです。

最高峰の黒檜山(1,828m)への登山はもちろん、夏には湖畔でキャンプする



ヤシオツツジ咲く黒檜山登山道から大沼を見下ろす

人の姿が数多く見られ、秋には紅葉が美しく、冬には湖面が氷結しワカサギ釣りのテントが立ち並ぶといったように、四季を通じて観光客が絶えません。

当部内は首都圏からの交通の便の良さもあり、法人の森林やボランティアの森等も設定されています。渋川市赤城町にはNPO法人、渋川

市、関東森林管理局が共同で森林整備に取り組み「あかぎ親しみの森」があり、毎年2回の森林整備が行われています。平成10年の活動開始以来、今や参加ボランティアが増え、多くの人が森林整備を通して森林とのふれあいを楽しむ場となっています。

森林官としての業務は、春の植付からはじまり、造林請負関係の業務が夏まで続き、秋が近づけば来年度事業のための踏査や収穫調査が加わり、報告書類の作成に追われるうち、あつという間に冬になってしまいます。

その後も管理関係や、調査書類の残りを作成していると1年が終わるといった感じで、なかなか気の休まることがありません。

特に、1年目は年間の仕事の流れが読めず、色々と苦労することもありました。

近隣事務所との距離も離れているため先輩森林官と仕事を共にする機会は少なく、現場にはもっぱら基幹



伸びやかな赤城山の裾野



レンゲツツジが満開の赤城白樺牧場

作業職員の方と同行し、山や林業の話を聞きながら仕事をさせていただきました。

私はずっと登山が好きなので、長い稜線上の境界などを見回るのは楽しく、長い距離をやり遂げたときにはなかなかの達成感があります。

また、自分の調査した森林に手が入り、適切に整備されていく姿を見るのも森林官としての醍醐味のひとつだと思います。

これだけの広い山系が自分に任されているのだと思うと身の引き締まる思いがしますが、少しでも任せられた森林を良い方向に導くために「日々これ勉強」と思いながら山に向かう毎日です。